

授業科目名 <英訳>		エビデンスユーザ入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 古川 壽亮				
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2016・通年不定	曜時限	月2 開講日注意	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<p>Evidence-Based Medicine (EBM: 根拠に基づく医療)の言葉は、今やすっかり人口に膾炙し、アンケート調査をやる人はアンケートで出てきた数字をエビデンスと呼び、画像研究をやる人はその数値をエビデンスと呼び、分子生物学をやる人はその結果をエビデンスと呼ぶ時代となりました。</p> <p>個々の患者の医療判断において、また集団の医療施策判断において、その根拠となるべきエビデンスとは、どういう性質のものを言うのか、どうすればそれを探ることが出来るのか、ない場合にはどうするのか、など、エビデンスユーザーとして必要な教養を身につけていただくコースにしたいと考えています。</p> <p>そして、エビデンスユーザーの腕を磨かれたら、その次には、エビデンスメーカーとして何をすべきかも自ずと明らかになって行くことを期待しています。</p> <p>なお、KUSPHにはさまざまなバックグラウンドと興味関心の方が集っておられます。EBMの方法論は、すべての対人実践に共通であると信じています。代替医療、教育、経済施策、環境施策など、各人の興味関心のテーマについてKUSPH卒業生が今後EBMを実践する一助にして頂ければ開講者として本望です。</p>											
[到達目標]											
<p>1.診断、治療（介入）、予後、副作用（因果関係）の各領域において、標準的な批判的吟味のチェックポイントを習得する</p> <p>2.各領域において自分の臨床疑問について、疑問の定式化、情報検索、情報の批判的吟味、批判的吟味の結果の实地応用の4ステップを実施したレポートを提出する</p> <p>3.上記2.のレポート4本に加えて、治療（介入）については、系統的レビューについて、GRADE評価を用いて上記と同様のレポートを提出する</p>											
[授業計画と内容]											
<p>講義は以下の手順で進行します（初年度ですので、参加者のレベルに合わせて試行錯誤します。以下は当初予定です）。</p> <p>1.診断、治療（介入）、予後、副作用（因果関係）、系統的レビューについて、教科書を指定しますので、批判的吟味のチェックポイントを、受講者が分担して解説・プレゼンテーションします</p> <p>2.スモールグループに分けて、各グループで上記の各テーマについてEBM実践の例を発表して頂きます</p> <p>3.上記のプロセスを学習した後、各個人は今度は自分の臨床疑問について実践の例をレポートしていただきます</p> <p>自学自習に相当の時間を要すると思われるので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。そして、授業は原則隔週で行います（月曜日2限、G棟2階セミナー室B、開講日注意）。</p>											
回	月日	テーマ	(担当者)								
1	4月11日	EBMのスピリット	(古川)								
2	5月9日	治療（介入）の批判的吟味のチェックポイント	(受講者)								
----- エビデンスユーザ入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

エビデンスユーザ入門(2)

3	5月23日	その実践例(1)グループ発表
4	6月6日	その実践例(2)グループ発表
5	6月20日	予後の批判的吟味のチェックポイント (受講者)
6	7月25日	その実践例グループ発表
7	8月1日	予備日(1)
8	10月3日	診断の批判的吟味のチェックポイント (受講者)
9	10月31日	その実践例グループ発表
10	11月7日	副作用(因果関係)の批判的吟味のチェックポイント (受講者)
11	11月21日	その実践例グループ発表
12	12月5日	系統的レビューの批判的吟味のチェックポイント (受講者)
13	12月19日	その実践例グループ発表
14	1月16日	予備日(2)
15	1月30日	予備日(3)

[履修要件]

MPH選択「文献検索法」「文献評価法」の履修をお勧めします。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加度(25%)
診断、治療(介入)、予後、副作用(因果関係)、系統的レビューについて、自分の興味関心の臨床疑問について提出した計5本のレポート(75%)

[教科書]

Gordon Guyatt 他『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) (ここに含まれる章を教科書として指定しますが、これらは下記Manualに全て含まれていますので、下記Manualを購入された方はそちらを利用下さい)

[参考書等]

(参考書)

Gordon Guyatt 他『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional)
古川壽亮『エビデンス精神医療』(医学書院)

(関連URL)

<http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html>(健康増進・行動学分野ホームページのEBM Toolboxもご利用ください)

[授業外学習(予習・復習)等]

自学自習に相当の時間を要すると思われるので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。

エビデンスユーザ入門(3)へ続く ↓ ↓ ↓

エビデンスユーザ入門(3)

(その他 (オフィスアワー等))

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。